

農

安全・安心を
お届け

産直便

PROFILE

まつおか

まさはる

松岡 正治 さん

MATSUOKA MASAHARU

75歳

弥富市寛延

地域に根差して育む甘さ

グリーンセンター十四山店の開業当初から出荷を続けている松岡正治さんは、イチゴ「紅ほっぺ」を栽培しており今年で就農から45年目を迎えます。昔からの専業農家の家系でしたが、就農したのは「いとこが立田地区でイチゴを栽培しており、会社員として働くよりも良い収入を得られると聞いたことがきっかけです」と話します。「イチゴは約半年間の収穫期間中に何度も収穫できるため、安定した収入が得られるのが魅力です」と語る松岡さん。現在は奥様と従業員と共に、約20アールのハウスを管理しています。

イチゴの栽培では、特に苗づくりに苦労しており「昔は畑で苗を育てていましたが、現在は育苗施設のような棚を活用しています。それでも、炭疽病等の病気が発生すると苗がだめになるので気が抜けません」。また、イチゴの苗づくりは12月頃から始まり、9月頃に定植して11月頃から収穫が始まるため年間を通して作業が続き、収穫期は休む暇もなく収穫やパック詰め作業があります。

産直施設等への出荷を続けられているのは「自分のイチゴを指名して買ってくださいるお客様もいて、口コミでファンが広がっていくのが嬉しいからです」と話します。出荷時は見た目や品質に注意を払っており、気温が高くなる季節は過熟にも気を配るといいます。また、約40年前から地元の幼稚園等の子ども達を対象にイチゴ狩り体験を開催しており「子ども達がイチゴを美味しそうに食べる姿を見ると元気をもらえます」と笑顔で語ります。

最後に「これからも、無理のない範囲で栽培を続けたいです。

イチゴを見かけたら、ぜひ手に取って食べてみてください。そして産地の応援もよろしくお願いします」とメッセージをいただきました。



▶パック詰めを行う松岡さん

▶圃場から収穫したイチゴ